

地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点

年次報告会 CIRAS

共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」

柳澤 雅之

京都大学東南アジア地域研究研究所

東南アジア地域研究研究所附属 CIRAS センターは、地域研究コミュニティの協力参加のもと、公募による共同研究や公開シンポジウム・公開ワークショップなど、学内外に広く開かれた研究システムを導入している。地域名を冠さない地域研究の拠点として、2020 年度は、公募により 17 件の課題を採択した。

すべての研究課題の成果報告を公開する場として、通常であれば、年度末（2 月中旬）に、各課題の代表者が一堂に会する成果報告会を実施していた。しかし、コロナ禍の今年度、いつもとは異なる開催方式を採用した。

今年度の研究活動の成果報告は、各課題の代表者によって 10 分間の口頭発表にまとめてもらい、オンデマンド配信によって一般に視聴してもらうこととした。はじめての試みであったが、スライドを繰り返し見ることができることや、遠方からも気軽に参加できることなど、口頭発表とは異なるメリットもあった。心配された、機材や通信の大きなトラブルもなく実施することができた。仮にコロナ禍が収束し対面での報告会形式に戻ったとしても、オンラインを併用することのメリットを確認することができた。

また、2021 年 2 月 16 日に、すべての課題の代表者にオンラインで集ってもらい、「コロナ禍における地域研究」に関して意見を述べてもらうオンライン・ワークショップを開催した（表）。

通常の成果報告会とは異なり、コロナ禍の中での研究会実施や現地調査の方法等について、苦労話やそれぞれの工夫について意見を交換した。共通の課題を抱えている研究者が多い中で、こうした経験の共有は大変意義深いものであった。

末尾になりますが、これらすべての研究活動に関わってくださった課題代表者、共同研究員、ならびに、共同研究委員のみなさまに心より御礼申し上げます。

CIRAS Website : <https://ciras.cseas.kyoto-u.ac.jp>

2020年度CIRASセンター 共同利用・共同研究報告会オンラインフォーラム	
日 時	2021年2月16日（火） 13時30分-15時30分
	2008 ミーティング
2月16日（火）	司会：柳澤 雅之
13:30 - 13:35 (5分)	はじめに：東南アジア地域研究研究所長 遠水 祥子
13:35 - 13:40 (5分)	報告説明：CIRASセンター長 柳澤 雅之
13:40-13:56 (16分50秒)	グループ1 1 異域の管理居住環境データベースの構築（山田 隆太） 2 コミュニティ森林再生の比較分析（阿部 隆一） 3 コミュニティ林業からみた東南アジアの政治経済動向と自然資源管理（森島 大輔） 4 アジアにおける雇用・労働市場の広域市場化と地域社会の資源利用の歴史（田中 聖也） 5 東南アジア大動山地域における長期的な生態系と土地利用変化（広田 勲）
13:56 - 14:09 (13分)	グループ2 1 長崎県産産物データベースの構築（藤本 智樹） 2 西津島地域の地域情報学分析—主題の過渡性と同時性（河津 彰宏） 3 地域情報学ツールを活用—東シベリアの少数民族ゲルマン族のために（長瀬 大輔） 4 パフォーマンスによる文化の交換—演劇教育を活用した地域研究の展開（藤本 智樹） 5 近畿長門のラテンアメリカの資源政策についての地域比較研究（岡田 真）
14:09 - 14:22 (13分)	グループ3 1 ユーラシア圏地域の自然環境と地域社会の生活戦略（池田 聖典） 2 中央ユーラシアおよび中東ムスリムの家業・ジェンダーをめぐる展開：資源と（藤本 智樹） 3 東南アジアの多民族社会におけるムスリム女性の家業形成と宗教実践（光嶋 孝） 4 東南アジアにおける内戦の歴史と、映画を活用した試みに着目して（藤本 智樹） 5 東南アジア大動山の歴史文化—川をめぐっての伝説・大衆を中心に（藤本 智樹）
14:22-14:35 (13分)	グループ4 1 東南アジアの多民族社会におけるムスリム女性の家業形成と宗教実践（光嶋 孝） 2 東南アジアにおける内戦の歴史と、映画を活用した試みに着目して（藤本 智樹） 3 東南アジア大動山の歴史文化—川をめぐっての伝説・大衆を中心に（藤本 智樹）
14:35 - 15:00 (25分)	総 評（共同研究委員）
15:00 - 15:30 (30分)	総合討論
15:30	閉会

2020 年度採択課題一覧

